

【アメリカ】スティーブン・ビーガン氏の国務副長官への指名承認公聴会

海外立法情報課 西住 祐亮

* 2019年11月20日、国務副長官に指名されたスティーブン・ビーガン氏の指名承認公聴会が上院外交委員会で開催され、2019年12月19日には、上院本会議で指名が承認された。ビーガン氏の証言（準備書面）及び質疑の概要を紹介する。

1 概要

2019年11月20日、連邦議会上院外交委員会は、トランプ（Donald Trump）大統領によって次期国務副長官に指名されたスティーブン・ビーガン（Stephen Biegun）氏の指名承認公聴会を開催した¹。12月19日には、上院本会議で指名が承認された（賛成90、反対3、不投票7）²。ビーガン氏は、2018年8月から国務省北朝鮮担当特別代表を務めているが、国務副長官就任後も同ポストを兼務している。

2 ビーガン氏の証言（準備書面）

ビーガン氏は、自身の経歴を紹介した上で、指名が承認された場合にに取り組む重点目標について証言した。

(1) 経歴

自身の経歴としては、非営利団体、連邦議会、行政府、民間企業（フォード・モーター社、2004年～2018年）での勤務経歴を紹介した。特に、連邦議会と行政府の双方で勤務した経歴を踏まえ、国務副長官就任後は、連邦議会との協力や対話を重視するとの意向を強調した。

非営利団体での経歴としては、全米民主主義基金（National Endowment for Democracy: NED）の下部組織の責任者として、ソ連崩壊直後のロシアに勤務し（1992年～1994年）、同国の民主化支援に携わったことなどを紹介した。

連邦議会での経歴としては、下院外交委員会スタッフ（1994年～1999年）や上院外交委員会スタッフ（1999年～2000年）として勤務し、北大西洋条約機構（North Atlantic Treaty Organization: NATO）拡大に関する議論などに携わったことを紹介した³。

行政府での経歴としては、国家安全保障会議（National Security Council: NSC）スタッフとしての経歴（2001年～2003年）や、北朝鮮担当特別代表としての取組を紹介した。後者に関しては、核・ミサイル問題の解決に向けて、日本、韓国、オーストラリア、NATO諸国、中国、ロシアなどと緊密に連携しているとした。また、北朝鮮の姿勢については、「北朝鮮が非核化を選択したことを示す具体的な証拠は見られない」との現状認識を示す一方、初の米朝首脳会談（2018年6月）で得られた合意の履行に向けた努力を強化する意向も表明した。

* 本稿におけるインターネット情報の最終アクセス日は、2020年3月10日である。

¹ “Nominations,” Hearing of the Committee on Foreign Relations, Senate, 116th Congress, 1st Session, November 20. <<https://www.foreign.senate.gov/hearings/nominations-11/20/19>>

² “Roll Call Vote 116th Congress, 1st Session, Vote Number 426,” United States Senate, December 19, 2019. <https://www.senate.gov/legislative/LIS/roll_call_lists/roll_call_vote_cfm?congress=116&session=1&vote=00426>

³ ビーガン氏の経歴については、“Stephen Biegun, Deputy Secretary of State,” U.S. Department of State, December 21, 2019. <<https://www.state.gov/biographies/stephen-biegun/>> なども参照。

(2) 重点目標

自身の指名が承認された場合の重点目標としては、人員（people）、政策（policy）、プロセス（process）の3点を掲げた。

人員については、優秀な人材の確保、福利厚生の上昇、職業訓練の強化といった現行の国務省の取組を継続させていくとした。

政策については、ビジョンと価値に基づく政策の重視を掲げた。具体的には、各国の主権の重要性や、自由、人権、民主的価値、法の支配の重要性を指摘した。また、米国が課題に取り組む上で、同盟国と連携することが重要になるとの見方も強調した。

プロセスについては、行政府の中で省庁間の調整を円滑にすること、連邦議会と行政府の協力・対話を緊密にすること、政府が市民社会や非国家主体との連携を進めることが重要になると主張した。

3 質疑

質疑では、ビーガン氏が担当してきた北朝鮮問題に関する質問が多かったが、中国、ロシア、イラン、同盟諸国などに関する質問も出た。また、民主党議員からは「ウクライナ疑惑」に関する質問も多く出た。

日本に関しては、コーリー・ガードナー（Cory Gardner）上院議員（共和党、コロラド州）が、米韓同盟及び日米同盟の責任分担に関する質問をした。これに対して、ビーガン氏は、韓国を「最も重要な同盟国の一つ」と呼ぶ一方、責任分担に向けて韓国と「タフな交渉」を続けているとした。また、日本や韓国における米軍のプレゼンスを維持すべきと回答する一方、いかなる国にも「ただ乗り」は認められず、同盟国が完全かつ真剣に責任を果たすことが必要であると指摘した。

また、ミット・ロムニー（Mitt Romney）上院議員（共和党、ユタ州）は、権威主義に基づく中国の統治モデルが、世界の民主主義や人権を脅かしているとの見方を示した上で、米国が同盟国と連携して対処する重要性を指摘した。これに対して、ビーガン氏は、不安を共有する世界各国との連携を強化する意向を示した。

北朝鮮に関しては、ガードナー議員が、国務副長官就任後の取組について質問した。これに対して、ビーガン氏は、国務副長官就任が北朝鮮問題の優先順位の低下ではなく、上昇を意味するものであると強調した。他方、この点に関しては、ロバート・メネンデス（Robert Menendez）上院議員（民主党、ニュージャージー州）から、多地域・多分野を担当する国務副長官との両立可能性を心配する見方も示された。

北朝鮮の人権問題については、エドワード・マーキー（Edward Markey）上院議員（民主党、マサチューセッツ州）が質問した。米国がこの問題に関する国連安保理事会の開催を断念した（2018年）ことや⁴、自身が同会合の開催を求める書簡をケリー・クラフト（Kelly Craft）国連大使に送ったことに触れ⁵、ビーガン氏に見解を求めた。これに対して、ビーガン氏は、北朝鮮と対峙する上で「最も難しい問題の一つ」とであると述べる一方、価値に関わるこの問題から目

⁴ 同会合は2014年から2017年まで毎年開催されてきた。

⁵ “Senator Markey Urges UN Ambassador Kelly Craft to Place North Korean Human Rights Abuses on U.N. Security Council Agenda,” Website of Senator Ed Markey, November 22, 2019. <<https://www.markey.senate.gov/news/press-releases/senator-markey-urges-un-ambassador-kelly-craft-to-place-north-korean-human-rights-abuses-on-un-security-council-agenda>> ただし結果的には、2018年に続いて2019年も、同会合が開催されることはなかった。

を背けることはしないとの姿勢も強調した。

また、ロブ・ポートマン（Rob Portman）上院議員（共和党、オハイオ州）は、北朝鮮による拘束から解放された直後に死去した米国人大学生オットー・ワームビア（Otto Warmbier）氏に言及した上で、ビーガン氏に見解を求めた。これに対して、ビーガン氏は、北朝鮮の人権問題を注視していくとの意向を打ち出すと同時に、非核化交渉が、人権問題をめぐる対話につながる可能性があるという見方を示した。

なお、同委員会委員長のジェームズ・リッシュ（James Risch）上院議員（共和党、アイダホ州）は、公聴会の冒頭で、日韓の秘密軍事情報保護協定（General Security of Military Information Agreement: GSOMIA）に言及した。GSOMIA を破棄する（更新しない）韓国政府の方針（2019年8月表明）を「非生産的な措置」であるとした上で、破棄方針の撤回を韓国政府に要請する決議案を提出するとの意向も示した⁶。

⁶ 日韓 GSOMIA に関する決議案は、この公聴会が開催された 2019 年 11 月 20 日に提出され、翌 11 月 21 日の上院本会議にて、全会一致で採択された。11 月 22 日には、韓国政府が破棄方針を停止し、GSOMIA は 1 年間延長されることになった。西住祐亮「GSOMIA に関する連邦議会上院決議」『外国の立法』No.282-2, 2020.2, pp.36-37. <http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_11448997_po_02820214.pdf?contentNo=1> を参照。